

## 早稲田大学 社会科学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	<p>昨年通り大問5題。大問Ⅰだけが正誤判定問題で、残りの大問4つは長文総合問題。分量は昨年並みであった。長文総合問題は文章として難解な構文の文は含んでいない。論旨の読み取りもほぼ標準的であるが、解答の選択はやや難化したと思われる。同様に、長文の中には難易度の高い単語も散見される。もちろん前後関係から意味の推測が容易な単語もあるが、ピンポイントで意味を問われる単語のレベルは上がっており、やはり単語レベルの勉強は今後もおろそかにはできない。内容一致問題は、明らかな文法違反を指摘する問題の中に、かなり紛らわしい選択を迫られる問題も見られた。このあたり、かなり迷った受験生もいたと推察される。90分という時間に対して問題の分量が多いので、大問Ⅰであまり時間に時間をかけ過ぎないことが大事である。全体的に総じて難化した。合格のためには、やはり7割以上の得点は取りたいところである。来年度に向けての勉強としては、まず単語の勉強を怠らないことが大事である。基本的な単語の語法や熟語を覚えておくことも当然だが、ややレベルの高い単語も市販の単語帳などを用いて身につけたい。また長文読解をしながら、もしわからない単語が出てきたらきちんと調べて覚えておくなど丹念な勉強をしてほしい。文法は大問Ⅰで問われるが、一部を除けば、文法の大原則を問う問題がほとんどである。したがって細部にこだわりすぎず、まずは文法の屋台骨になるような原則をしっかり押さえることから勉強を始めたい。長文は標準的な文章を早く正確に読めるように経験値を高める必要がある。また選択肢を先にチェックしてから読むなど、解く手順にも戦略が必要だろう。</p>

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	正誤問題	<p>昨年同様、小問10題構成。前述のように、ここで主に問われるのは文法の大原則、例えば、品詞の用法、動詞の形、主語と動詞の合致などである。間違いが明らかな問いで誤答をしてしまうと不利になるためそこは慎重に解きたいところだが、時間をかけすぎないことも重要である。難解な問いを見極めて割り切ることも大事である(例えば今回の問題で言えば、8のNestlingを間違いと判断するのはかなり難しい)。上で挙げたように、正誤問題で問われるのは原則的な文法である。文法のオーソドックスな勉強はもちろんのこと、日ごろから、英文に対するなじみ、ないしは経験値を上げるための努力をすることも、判断の速さに結び付くという意味で重要である。</p>	標準
Ⅱ	読解問題	<p>「ジェンダーフリーのトイレを設置する」という話題であり、内容的には分かりやすい。語義を問う問題、空所補充問題、内容一致問題が全部で8題出題された。6のa moot pointという語句は見慣れないが、選択肢を精査すれば答えは明らかである。内容一致問題も標準的なレベルにある。間違っている選択肢が明確に本文の論述に反するので、正解を導くのはそれほど難しくない。</p>	標準
Ⅲ	読解問題	<p>「チップ労働者と賃金格差」がテーマである。チップ労働者と一般の労働者がどのように「対比」されているかを正確に読み取ることが重要である。この問題に限らず、多くの長文問題において「対比」は最も基本的かつ重要な文脈である。日ごろの勉強から常に「対比」を意識しながら読むことは、入試でも役に立つことは間違いがない。問題は1のproliferate(急増する、増殖する)の意味を問う問題、2の正答のparity(同等、等価)はややなじみが薄かったかもしれないが、早稲田の受験生としては意味を知っているべき単語である。また7の正答であるeは本文としっかり合致するので選択しやすいが、aの選択肢が本文でmore than twiceと述べられているところが、単にtwiceにすり替わっているという間違いに気づきにくかったかもしれない。データや数値がどのように説明されているかをしっかり把握して比較できる能力も大事であることがこの問題から見て取れる。</p>	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅳ	読解問題	<p>「食肉の消費と環境問題」がテーマの長文。本文の情報量が多い点が読みの負荷を高めているが、英文としては読みやすい。1の <b>whittle down</b> (そぎ落とす、減らす)、3の <b>ameliorate</b> (改善する) といった単語、5の <b>relegate</b> (追放する、追いやる) を <b>confine</b> と同義とみなす問題はやや難易度が高い。しかしⅢで述べたように、どの単語も早稲田を受ける以上、身につけておくべき単語のリストに十分入っているとも言える。8の内容合致は2つの正解を選択する形式で、やや難しかったかもしれない。本文で <b>one of the most meaningful changes</b> と言われているところが、選択肢cでは <b>the most important change</b> と言い換えられており、これを正解とするのか否かはやや紛らわしい。少なくとも選択肢の表現によれば、重要な変化が複数あるとは判断できないが、本文では <b>one of~</b> という表現を踏まえて、複数あると考えられるのでcは不一致となる。このあたりは細かな詮索を求めているというよりも、英文を論理的に解説できるかどうかをさらりと問うているように思われる。とはいえ、時間制限の中で正確に判断するために苦勞した受験生も多かったことであろう。</p>	やや難
Ⅴ	読解問題	<p>「ゼレンスキー大統領の演説の効果について」の長文である。話題はまさにタイムリーであり、社会科学部を受験する生徒であれば、当然、関心を持ってしかるべき話題である。日ごろから時事的なニュースにも目を配っておくことは英語対策として当然の準備だと考えるべきだろう。去年のビットコインの話題に比べれば、かなり取り組みやすかったのではないだろうか。長文の構造もゼレンスキー大統領がドイツ、ポーランド、日本、アメリカでどのように演説をしたかという事例が並行的に書かれており情報が明確な主題の下に展開されているので読みやすかったと思われる。しかし設問はやや難しい。3の <b>sticking point</b> (行き詰まりの原因)、5の <b>stalemate</b> (膠着状態) などの単語はなじみがなかったと思われる。また8は明確に解答が絞れるものの、7はやや選択が難しかったと思われる。難しすぎることはないが、英文を読んで、何が重視されているのかを指摘する能力が、やはりある程度高いレベルで求められていることは間違いないであろう。日ごろから、漫然と英文を読むのではなく、問題への解答以外にも、書き手の主張がどのように展開されているかを研究してみるような、一歩立ち入った勉強が求められる。</p>	やや難